

強みを活かした推進員活動

はじめは、
本人、家族、支援者自身、組織の強みを
探すところ

愛知県みよし市
子育て健康部健康推進課
保健師 近藤 隆彦



みよし市の基礎情報

平成30年8月1日時点

人口	61,219人	65歳以上人口	10,689人
高齢化率	17.46%	第6期介護保険料	4,040円
日常生活圏域数	3か所(H29～)	包括数 (H29増設)	直営：1か所 委託：2か所

認知症地域支援推進員数： 11名（うち行政：3人、包括：6人、その他：2人）

地域の特徴：

- ・名古屋市と豊田市の間に位置し、人口増加しているが、高齢化率は低い。
- ・約32Km²と小さなまち。古くは農村であり、名産はかき・なし・ぶどう。
- ・桜の名所でもある三好池は、カヌーのまちの象徴でもあり、その道の人には有名。
- ・夏に三大夏まつりがあり、大提灯は世界一の大きさ。
- ・認知症施策は、認知症サポーターキャラバンで市部門日本一のまち。



第7期介護保険事業計画における 認知症施策の全体像



※赤字が推進員が関わった又は関わっている事業

みよし市の推進員の主な役割

配置場所	市役所 長寿介護課	市役所 健康推進課	各包括	市民病院	訪問看護 ステーション
新オレンジプラン の推進					
初期集中支援					
カフェ					
ケアパスの普及					
在宅医療					
医療介護連携					
予防					
行方不明対策					
認知症サポーター					
家族支援					

みなさんの強みはなんですか???

【近藤の強み】

- 保健師だけど、希少価値の高い男性
- 仕事モードのときは、社交的
- 趣味：家庭菜園、ピアノ、カフェが好き
- パソコン作業が得意
- みよし市は生まれ育ったまち
- 行政保健師で推進員
- 健康教育が保健師の仕事で一番好き
- 健康づくり、予防接種、高齢福祉を担当した経験がある。
- それ以外の分野に関しては無知

これらをどう活かせたか

の事例紹介が今日のおはなしです。

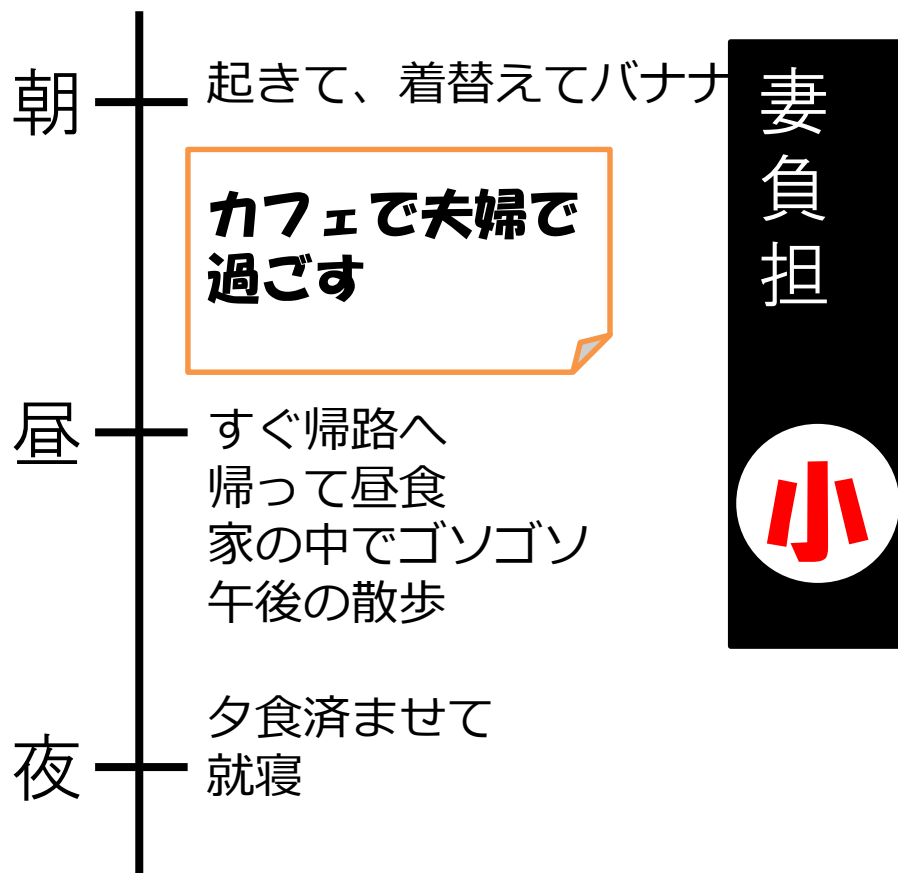
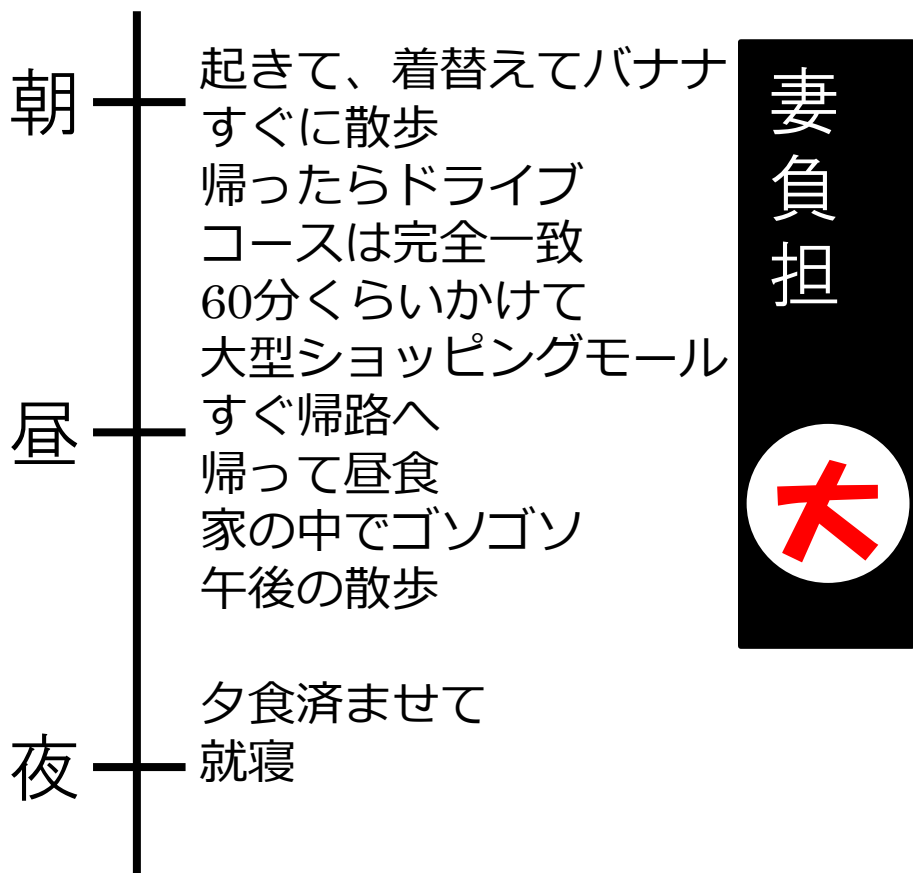
事例1～認知症カフェ開設の立役者！Aさんの事例～

劇 的

Before

After

ビフォー→アフター



個別の支援をきっかけに施策につながった

キッカケその1：
本人が得意なこと、好きなこと



- 個別支援をひたすら追及
- 本人の好きなことを探した
- 日頃はじっとしてられないけどモーニングは少し違った

キッカケその2：
喫茶スペースがそこにあった



- 介護事業所併設カフェ発見
- 認知症対応型デイもある
- モーニングもやっている

**本人と主介護者の妻のゆとりの時間のためにカフェあり
という思いから事業所と交渉開始**

事例2～行方不明者への対応～

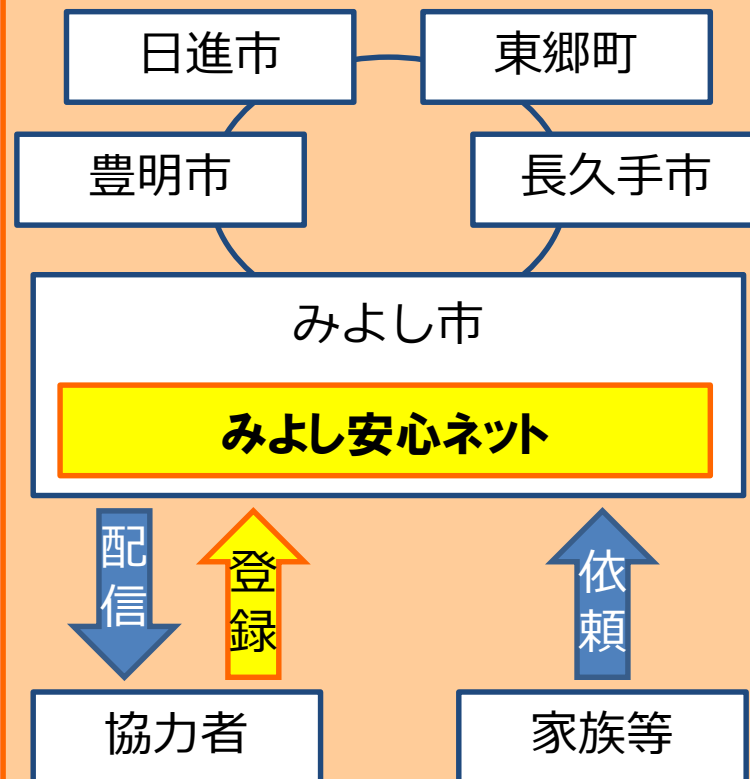
行方不明者への対応の全体像

搜索模擬訓練



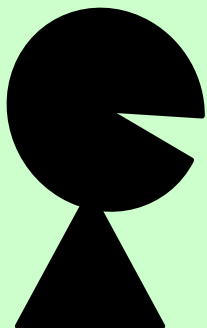
警察
連携協定

あいちオレンジネットワーク



行方不明者への対応に取り組むきっかけ、課題意識

キッカケその1：
認知症の人の家族の発言



- ・徘徊しそう
- ・常に一緒に無理
- ・閉じ込めとくしかない
- ・徘徊しちゃったら、あなた一人じゃ**搜索無理**

- 介護者の思わぬ一言(上記)
- この状況を継続させてはダメ
- まちづくりとしてじっくり対応を考えていくべきだ。

キッカケその2：
地理的要因

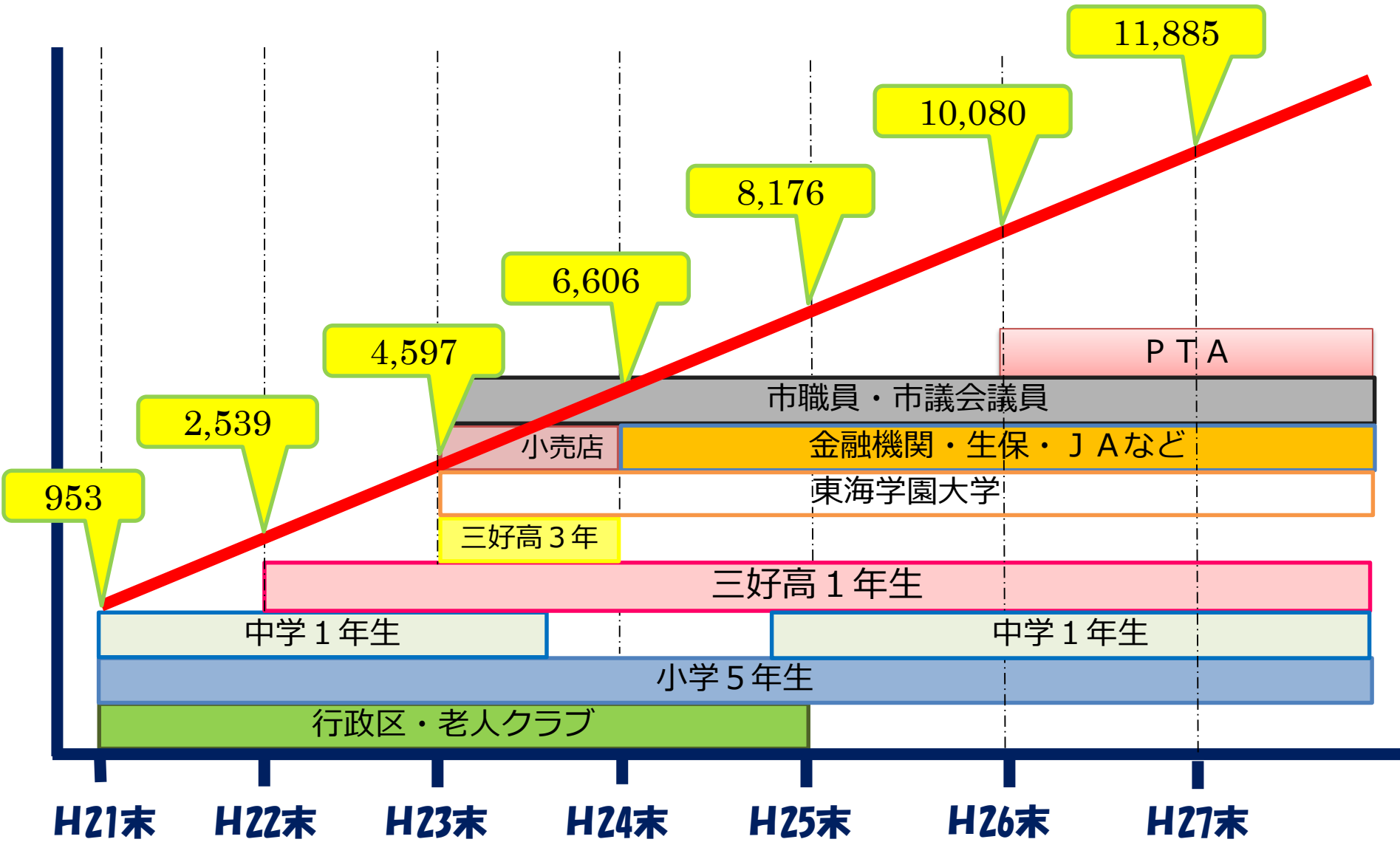


- 隣り2市町が認知症モデル事業
- 市単独では効果限定的
- ノウハウをゼロからは非効率

無知という強みが、危機感をあおり、対策につながった

事例3：行政の強みを活かした事例

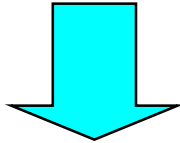
～認知症サポーター養成～



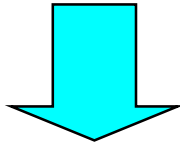
行政の強みを活かした事例

～認知症サポーター養成～

教育委員会へ依頼



校長会で説明、依頼



各校の日程希望確認

成功

各ポジションの強みは何か

非包括 ← → 包括

行政職員

- 計画、予算等施策反映
- 庁内他課から情報収集
- 国等の情報が得やすい
- 行政間連携を進めやすい

直営包括職員

行政



想いは同じ

共通項

- 総合相談等からニーズを把握しやすい。
- 事業所や民間企業とネットワークがある。
- 支援のノウハウがある。

非行政



その他

- 病院や介護施設等の施設特性毎の専門性発揮
- 民間の柔軟性
- 住民接触機会豊富

委託包括職員

行方不明者への対応の事業・取組みにおける工夫 ～推進員として心がけたこと～



個別支援から仕組み化の要素を抽出

- みよし市の認知症施策は、家族支援を形にしたもの
- 本人、家族の困りごとだけでなく、好きなこと得意なことに着目した。
- 個別を積み重ねると仕組みの必要性が出てくる。



内々とせず、目的を共有し、他とネットワーク

- 内々での対応では、本人、家族の感動は生まれない。
- 1人1機関での支援は、点にしかない。線が必要
- 2人2機関以上が関わるなら、目的は絶対共有
- 個別のネットワークを積み重ねると自然とまちのネットワークに広がる。

今後の活動の方向性について

認知症の人にやさしいまちは、高齢者にやさしいまち



まちづくりの課題は、生活支援等全体として考えていく必要がある。



地域包括ケアとして“小さなつながり”を広げる

仲間づくりを続ける

推進員の皆様へ



Facebook



「全国認知症地域支援推進員連絡会—すいしんネット—」検索



全国の推進員で交流しましょう！

推進員の皆様へ

愛知県みよし市三好町小坂50番地
みよし市役所 子育て健康部 健康推進課
認知症地域支援推進員・保健師
近藤 隆彦

0561-32-2111（代表）
takahiko_kondo@city.aichi-miyoshi.lg.jp

ご清聴

あ

い

が

と

う



還暦



緑寿



古希



傘寿



白寿



百寿

ございました。